

● 主催者挨拶 ●



社団法人シルバーサービス振興会

理事長 **多田 宏**

皆さま、こんにちは。ただ今、ご紹介にあずかりました社団法人シルバーサービス振興会理事長の多田でございます。本日は、ご多忙の中を「第17回健康長寿のまちシンポジウム」にご参加をいただきまして誠にありがとうございます。開会にあたり、主催者を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。

21世紀の我が国は、「高齢者の世紀」などと言われており、出生率が死亡数を下回る「人口減少時代の到来」が報じられ、その対策が急がれるところです。私どもシルバーサービス振興会は、本格的な超高齢社会を迎え、高齢者をはじめ国民全てが安心して暮らせる社会づくりを民間の立場から支えるため、シルバーサービスの質の向上と、その健全な発展を図ることを目的として、昭和62年に設立された厚生労働省所管の公益法人でございます。現在、設立からちょうど20年を迎え、200を超える会社や団体を会員として、これまでシルバーサービスに関する様々な調査研究事業、サービス従事者への各種研修事業、良質なシルバーサービスを保障する「シルバーマーク制度」など、幅広い事業を展開して参りました。

また、お手元の配付資料にパンフレットを入れてございますが、利用者自身による介護サービスの選択のための情報提供の仕組み「介護サービス情報の公表制度」についても、支援をしているところです。

また、このような事業の一環として、高齢者をはじめとして、私たち一人一人が住み慣れた「まち」で、心身ともに健康で安心して暮らし続けていける地域社会の構築を目指し、「健康・生きがい・安心・住まい」をキーワードとした「Well Aging Community (WAC)」という考え方のもと「健康長寿のまちづくり」を推進してきています。

この「健康長寿のまちシンポジウム」も「住みつづけられるまちの実現」に向けて、皆さまと一緒に考えて参りたいと、平成2年より毎年開催をしておりますが、17回目を迎えます今回も、このように大勢の方々にお集まり頂きまして、盛会のうちに開催できますことは、誠に有り難いことでございます。

皆様ご存じのように2年前、平成16年10月23日に発生しました新潟県中越大地震の衝撃は、ご記憶に新しいところでございます。被災地では、地域で一丸となって困難に立ち向かわれて、着実に復興が進んでいるところですが、いまだ自宅へ帰ることもできない方もいらっしゃる聞いております。

この震災を契機に、高齢者あるいは障害者等を災害時、どのように支援するかといった検討が進められ、平成18年3月には内閣府より「災害時要援護者の避難支援ガイドライン」が提示されました。これをもとに今後、各都道府県において、災害時要援護者支援マニュアル等への取り組みが、更に進んでいく

ものと思われます。特に要介護高齢者には、継続した切れ目のないケアが重要となりますが、災害時には、介護サービスを提供する事業者自身もまた被災者となり、その機能を停止せざるを得ない状況が想定されます。これに対応するために、支援情報についての円滑な管理体制づくりなど、行政や事業者、地域住民の広域的・横断的な連携による支援体制の整備が、必要になると考えられます。

今回のシンポジウムは、被災時の各方面の対応やその後の取り組みを学び、安心なまちづくりの実現に向けて、行政や民間事業者、一般市民の方々を対象に開催するものです。

本日は、社会福祉法人長岡福祉協会 高齢者総合ケアセンターこぶし園 総合施設長の小山剛先生に基調講演をいただき、引き続きまして、大阪市立大学大学院生活科学研究教授の白澤政和先生をコーディネーターにお

迎えし、行政をはじめ各界の有識者の方々によるパネルディスカッションが行われることになっています。様々な視点から、貴重なご意見がいただけるものと期待している次第でございます。

そして、この機会を通じまして、ご参会の皆様方の多くが示唆を得られ、その成果が各地のまちづくりに反映されて、本日のテーマでもあります『地域の絆』が深まることを強く願っているところでございます。

最後になりますが、このシンポジウムのために、貴重なお時間を頂戴いたしました諸先生方、さらには、ご支援を頂きました厚生労働省をはじめ、国土交通省、東京都及び関係諸団体の皆様に厚く御礼を申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。



● 来賓挨拶 ●



厚生労働省大臣官房審議官

御園 慎一郎 氏

ご紹介をいただきました、厚生労働省で高齢化問題の担当をしております御園と申します。本日は皆さまお忙しいところを、このシンポジウムのためにお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

私は老健局というところを担当しております。ベースは介護保険で、介護保険を中心として高齢化の問題を考えております。ご承知のように一昨年人口が減少する初めての状況を我が国の社会は迎えました。これからどんどん少子化が進んでいくと思われ、もう一方で、今年からいわゆる団塊の世代が定年を迎えます。2015年になると団塊の世代の皆さんが、高齢化社会のメンバーとして入ってくるようになります。今65歳以上の方々は、日本の社会の中に2500万人おられますが、団塊の世代が入ると、これがぐっと増えて2025年には3500万くらいになります。わずか10年から15年の間に一千万人増えて3500万人という、世界で今まで経験したことがない超高齢化社会、それを極めて短い時間に達成するという社会構造にいま日本はなっています。

そのような中で、いかに安心して暮らしていくか、老後の安心をどう確保するかというものの制度の基礎として、ご承知のように、平成12年から介護保険制度を発足させて運用してきているわけでございます。

この社会の安定のための制度である介護保険制度が、持続的に着実に運営されていくよ

うにいろいろな手だてをしているところです。まだまだいろいろな問題があることは、今日、お集まりの皆さまはよくご承知のところであることは私も承知しております。ただ制度というものは、一度作ったらそれで終わりということではなく、当然、足りないところは直していかなければいけないし、直せばいい話でもありますし、社会の変化に伴って、質的な変化、あるいは量的な変化あいまったいろいろな変化に対応して変えていかなければいけないところもあります。そういうことを当然、制度上の作業として私どもはやっていくつもりです。いずれにしても国民の皆さんと一緒にそういうところの作業を今後とも継続してやる中で、最初の話に戻りますが、介護保険という制度が日本社会の国民の皆さんの安心の元になるものにしていきたいと思っています。制度的には、この介護保険制度をベースにして、高齢者の皆さんを支えていく地域のネットワークをしっかりとくっていくということが不可欠だと思っています。

ただ、そういう中で、一番困るのは災害ということではないかと思えます。ご承知のように我が国は災害がたいへん多い国です。先ほどの理事長のごあいさつにもありましたように、中越地震もありました、振り返れば阪神淡路の大震災もございました。それだけではなく、台風や集中豪雨、それから幸いにし

て今年是非常に雪が少ないわけですが、一昨年
の冬はたいへんな大雪で、独居のご老人が
一人で暮らす豪雪地帯で、たいへんなご苦労
をされたわけです。

そのときに、対応する手だてを持っている
場合もございますが、基本的に災害というも
のは、突然くるわけですから、そのときにど
う対応していくかということは社会の力が試
されるときだと思っています。そういう災害
が起こった際に、高齢者の皆さんに対して、
災害の状況の情報をどうやって伝えるか、あ
るいは避難の支援をどうやってするか、そし
て、避難していただいたあとのケアをどうす
るかをスムーズにかつ連続的にしないといろ
いろなところで支障が出てきてしまいます。
先ほど理事長のお話にもありましたように、
政府としても昨年の3月に「災害時要援護者
の避難支援ガイドライン」を改定し、支援体
制の強化に取り組んでいるところですが、過
去の災害が発生したときの例を思い起こせ
ば、行政側の対応だけで十分なことができな
いことは、その時々事例が物語っています。

こういう際に、継続的なケアが不可欠な、
そこでケアが切れてしまうと困ってしまう支
援が必要な高齢者の皆さんに、きめ細かに対
応していくにはどうしたらいいかということ
になると、やはりそれはそういう高齢者の皆
さんの回りで高齢者の皆さんのご支援を日頃
からしていただいている福祉関係の皆さんや
介護サービスの事業者の皆さんによって、草
の根レベルと言いますか、行政の手の届かな
いところをしっかりとサポートしていただ
く。そういう協力、連携、まさに今日のシン
ポジウムのテーマであります、『地域の絆』
というものが構築されていることが、非常に
高齢者にとっては頼もしい。地域社会を客観
的に見させていただくと、そういうものが

しっかり出来ている地域は、地域社会として
非常に力強い社会です。高齢者の皆さんが確
実に守られるというだけではなく、それ以外
の事に関してもしっかりとその地域のネット
ワークができていて社会と言えるのではない
かと思っています。

そういう意味で、今日のシンポジウムの
「災害に学ぶまちづくり」ということですが、
災害が起こった際には、不幸なことでご
ざいますが、いろいろな代償を私どもの先輩
たち、それから私どもも払ってきているわけ
ですが、代償を払っただけに留めないで、今
日のような集まりをお持ちいただいて、しっ
かりと記憶に留め、記録に留めて、新たな災
害が起こった際に、なるべく被害やリスクを
小さくするということが極めて大事だと思っ
ております。

今日は、中越地震の際の被災地での活動経
験を基に小山さんのご講演をいただけるよう
です。それから大阪市立大学の白澤教授をは
じめとした皆さんのパネルディスカッション
があるようです。今日のこのシンポジウム
が、本当に災害が起こったときにどうするか
ということを出発点にして、地域のネット
ワークをどうつくっていくかということを考え
るきっかけとなり、そして皆さまがたが今
日のシンポジウムをきっかけとして、当然、
今でもそれぞれのネットワークを構築されて
おられるでしょうが、さらにそれを強固なも
のにしていくきっかけ、スタートになるシン
ポジウムであっていただくということを心か
ら期待しています。

最後になりますが、このシンポジウムを開
催していただきましたシルバーサービス振興
会をはじめとして、関係者様のご尽力とご協
力に心から感謝申し上げまして、私のごあい
さつとさせていただきます。